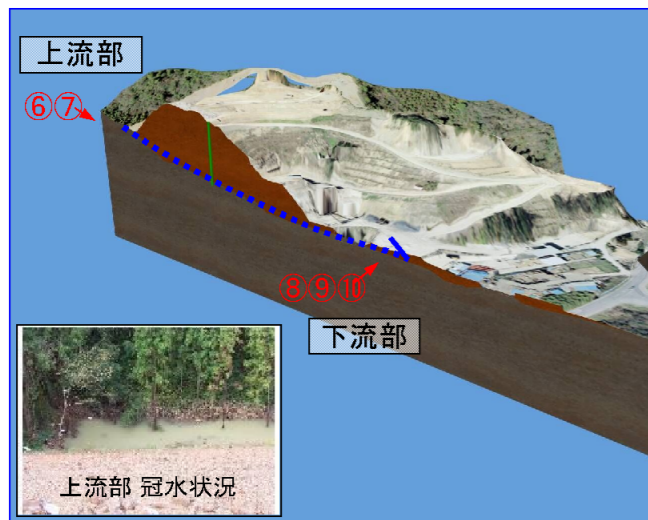
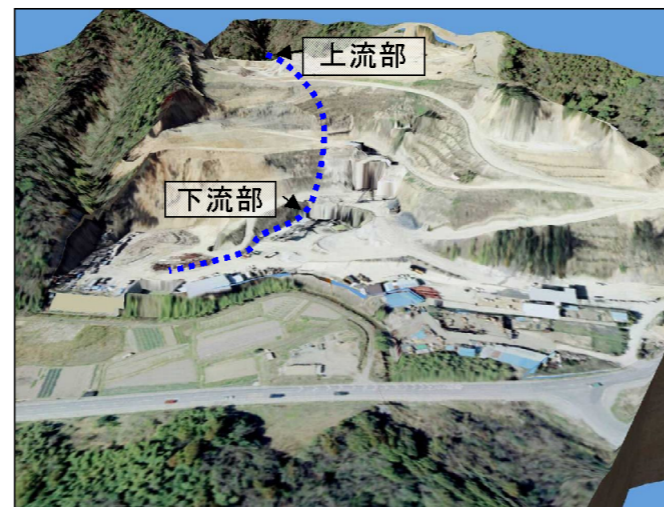


現況沢水水路 構造調査結果

① 現況・昭和50年地形との断面図



④ 現況地形状況



⑦ 上流沢部状況 H16.6撮影



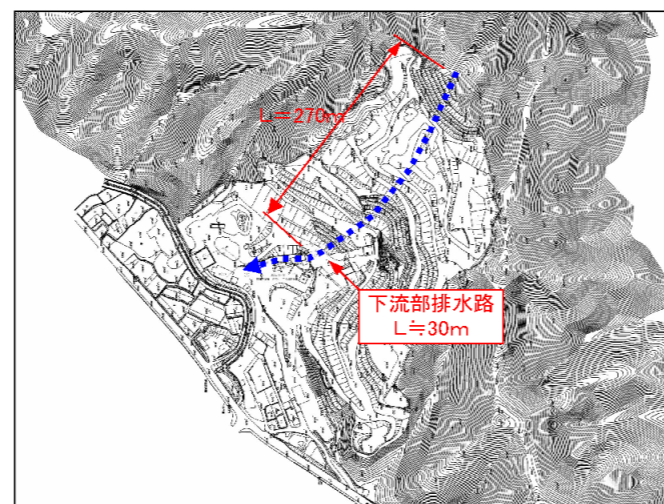
⑩ 下流部排水路状況 H19.6撮影



② 昭和50年地形状況



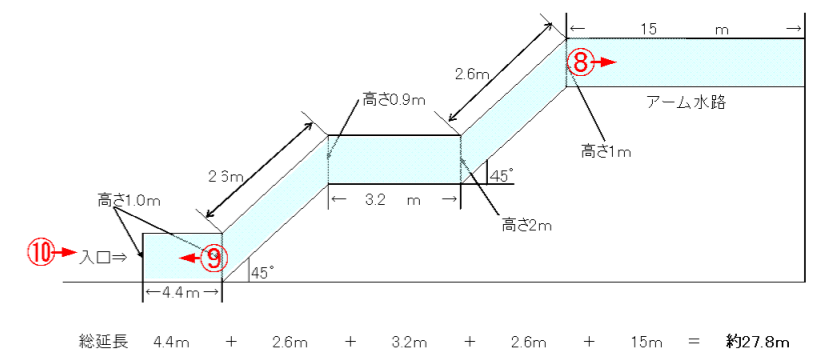
⑤ 現況 平面図



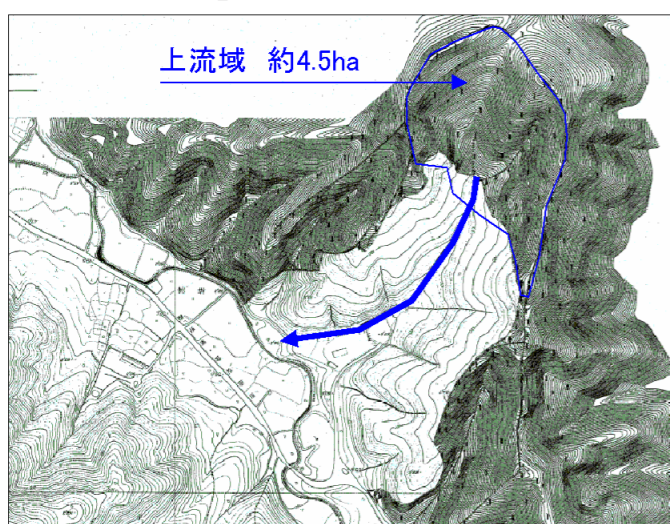
⑧ 下流部排水路状況 H16.6撮影



下流部排水路構造 断面図



③ 昭和50年 平面図



⑥ 上流沢部状況 H19.5撮影



⑨ 下流部排水路状況 H16.6撮影



**【概要】**  
現場上流部には、約4.5haの流域をもつ沢筋が存在し、この流域の沢水は廃棄物層内に流入している。  
流出水は、晴天時では廃棄物層の手前で浸透する程度であるが、集中豪雨等では、堆積する廃棄物により周辺沢筋が冠水する。

**【上流部】**  
上流部は明確な開口部はなく、表面水のほとんどは地下浸透している。  
廃棄物層内の流出経路は、旧沢筋部に沿って、混合物層下に存在する土砂・コンクリートガラ主体層を通過して、下流部に流下しているものと推定される。  
(トレーサー調査の結果  
流下距離 270mで到達時間約280分を要した)

**【下流部】**  
下流部は、旧沢筋に設置された排水路により流出されている。  
(下流 約30mはプレハブ排水路構造 1.0×0.6m)  
この間は、上面をコンクリート梁材を利用した暗渠構造となっている。



## 廃棄物地表面における発生ガス及び環境大気調査結果

### 1 調査の目的

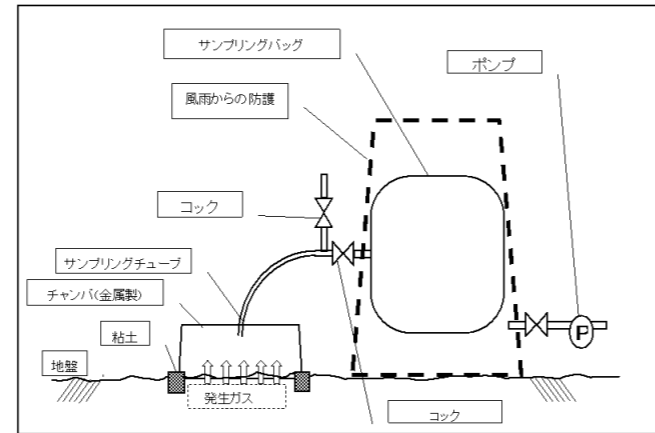
本調査は、産業廃棄物不法投棄事案に関し、廃棄物層内で生成されるガスの地表面での発生状況等を調査し、周辺住民の健康の保護及び生活環境を保全することを目的とする。過去の赤外線カメラによる地表面温度測定により、地表面温度の高い箇所では廃棄物層内部において生成されるガスが地表面に発生している可能性があるため、地表面ガス調査を実施する。また、調査時の周辺環境への影響を把握するため環境大気調査を実施する。

### 2 調査概要

#### 2-1-1 発生ガス調査

発生ガス調査は、ポンプにより吸引収集する。装置は下図のとおりとし、以下の手順による。

- ① 調査位置にチャンバを設置する。その際に、土壌ガスの攪乱を防ぐため、地表面に強く押し込まないこと。
- ② チャンバの周囲に粘土で目張りし、水をかけてチャンバ外気との交換を防ぐ。
- ③ チャンバ内の空気が発生ガスで置換されるのを待つ。
- ④ コックを開けて、サンプリングバッグに発生ガスを充填させた後、コックを閉めサンプリングバッグを回収する。



#### 2-1-2 調査時期

平成19年6月2日(土)から6月5日(火)

#### 2-1-3 調査地点

廃棄物露出箇所(地表面) (G-1)、覆土箇所(地表面) (G-2)

#### 2-1-4 調査結果

	窒素	酸素	一酸化炭素	二酸化炭素	硫化水素	窒素酸化物	硫黄酸化物	炭化水素	
								メタン	非メタン
	%	%	ppm	%	ppm	ppm	ppm	ppmC	ppmC
G-1	77	20	< 1	0.37	< 0.0005	2.6	< 1	6.8	2.8
G-2	78	21	< 1	0.26	< 0.0005	< 2.3	< 1	4.7	0.6

VOCs	検出限界	G-1	G-2
ビニルクロライド(塩化ビニルモノマー)	0.5 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満	定量下限未満
ジクロロメタン	15 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満	定量下限未満
クロロホルム	0.7 μg/m <sup>3</sup>	2.2 μg/m <sup>3</sup>	5.6 μg/m <sup>3</sup>
ベンゼン	0.5 μg/m <sup>3</sup>	7.1 μg/m <sup>3</sup>	5.4 μg/m <sup>3</sup>
1,2-ジクロロエタン	0.4 μg/m <sup>3</sup>	1.8 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満
トリクロロエチレン	20 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満	定量下限未満
テトラクロロエチレン	20 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満	定量下限未満
1,3-ブタジエン	0.4 μg/m <sup>3</sup>	3.8 μg/m <sup>3</sup>	0.8 μg/m <sup>3</sup>
アクリロニトリル	0.5 μg/m <sup>3</sup>	0.9 μg/m <sup>3</sup>	定量下限未満

#### 2-1-5 調査考察

- ◎ 廃棄物露出箇所の地表面、覆土箇所の地表面ともに一酸化炭素濃度、非メタン濃度により燃焼発生ガスからの顕著な影響は認められない。

### 2-2-1 環境大気調査

大気環境基準については、環境基本法に環境基準を定める規定が示されており、その規定を受けた測定方法による。ただし、廃棄物露出箇所(G-1)では上記方法以外に、地表からのダイオキシン類の発生状況を調べるため採取口の位置を地表面より30cmとしたダイオキシン類も計測する。その際、地表からの土砂の巻上げ等による影響を排除するため粒子状とガス状を分けて計測する。

### 2-2-2 調査時期

平成19年6月3日(日)から6月5日(火)

### 2-2-3 調査地点

廃棄物露出箇所 (G-1 : GL+150cm)、(G-1 : GL+30cm)、覆土箇所 (G-2 : GL+150cm)

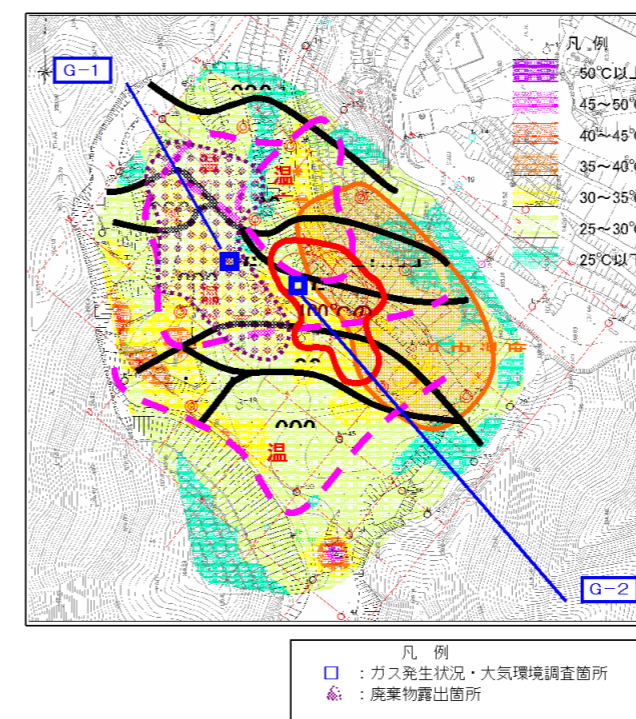
### 2-2-4 調査結果

項目	単位	一酸化窒素	二酸化窒素	窒素酸化物	二酸化硫黄	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	ダイオキシン類
		(NO)	(NO <sub>2</sub> )	(NO <sub>x</sub> )	(SO <sub>2</sub> )	(SPM)	(CO)	pg-TEQ/m <sup>3</sup>
G-1 (GL+150cm)	最高値	0.009	0.011	0.018	0.002	0.029	1.1	—
	最低値	0.002	0.004	0.006	0.000	0.000	0.7	—
	日平均値	0.004	0.007	0.011	0.001	0.017	0.8	0.023
	(GL+30cm ガス状)	日平均値	—	—	—	—	—	—
(GL+30cm 粒子状)	日平均値	—	—	—	—	—	—	0.0088
G-2 (GL+150cm)	最高値	0.003	0.015	0.017	0.001	0.051	1.1	—
	最低値	0.001	0.005	0.006	0.000	0.010	0.5	—
	日平均値	0.002	0.009	0.010	0.001	0.027	0.8	0.024

気象 6月3日(平均) 気温：19.4℃、湿度70%、風向 南南西、風速 0.8 m/s  
 6月4日(平均) 気温：20.2℃、湿度60%、風向 静穏、風速 0.7 m/s  
 6月5日(平均) 気温：20.2℃、湿度67%、風向 南西、風速 0.8 m/s

### 2-2-5 調査考察

- ◎ 廃棄物露出箇所、覆土箇所ともに環境基準に適合している。
- ◎ 廃棄物露出箇所、覆土箇所ともに燃焼発生ガスからの顕著な影響は認められない。



G-1 景観



G-2 景観